

## 県人会大交流祭



県人会大交流祭の歓迎レセプションで談笑する各地の県人会関係者ら=25日、新潟市中央区

# 故郷話題 広がる輪

## ルーツ確認 思い新た

### 芸能大会、物産展にぎわう

新潟市中央区の朱鷺メッセで25日から2日間の日程で始まった「眞人会大交流祭」。レセプションやふるさと芸能大会、大物産展などのイベントが開かれた会場では、同じ故郷でつながる県出身者と眞民とが交流した。

31階展望室で夕方開かれた歓迎レセプションには、各地の新潟県人会や県内の市町村長ら約300人が参加。名刺交換をしながら、あちこちで郷土を話題に輪が広がった。古町芸妓の舞もあり、へぎそばなど新潟の味も楽しんだ。

ふるさと芸能大会には県内外から個人13人と16団体が出演。故郷への思いを歌や民謡に託した。旧広神村(魚沼市)出身の小沼貞雄さん(71)=東京都大田区=は、3年前に自費制作でCD化した「ふるさとへ」を熱唱。「子どものころの実家の風景がよみがえった。いい記念になつた」と満足そうだった。

約170のブースが並

び、ラーメンや日本酒など新潟の味覚や特産品などを紹介する大物産展。会場の一角には、トキや都新潟県人会会長の高見佐渡おけさをモチーフに良一さん(71)。「同じ故らしい」と目を細めていた。

郷の人々が集まり、初対面なのに初対面じゃない感覚。最初から仲間に思えた。中越地震復興感謝ブースでは、千葉県から訪れた初老の男性が旧山古志村の棚田の写真に見入った。

制作したのは旧佐和田町(佐渡市)出身で京じ。最初から仲間に思えた。中越地震復興感謝ブースでは、千葉県から訪れた初老の男性が旧山古志村の棚田の写真に見入った。

スでは、千葉県から訪れた初老の男性が旧山古志村の棚田の写真に見入った。

り、「自分も3歳から5歳まで住んでいて…。中越地震には心を痛めました」と涙を落とした。ブースで郷土料理を提供していた長岡市山吉忠虫(61)は「これも一つの縁。元気に復興した姿を見てもらえてよかったです」と語った。